

東舞子

2016/11/30 (12月号)

神戸市立東舞子小学校

平成28年度学校だより

<http://www.kobe-c.ed.jp/hmi-es>

平和について考える～修学旅行～

書店に立ち寄ると、来年用のカレンダーや手帳が店頭に並べられ、郵便局では、お年玉付き年賀はがきが一斉に発売されるなど、師走の慌ただしさを感じさせる今日この頃です。早いもので、明日から2学期を締めくくる12月を迎えます。木枯らしが身を切る季節の到来でもあります。感染症が流行するこの時期、どうか健康管理に留意し、よい年末年始をお過ごしください。

さて、先日、6年生の子供たちと一緒に広島・宮島方面へ修学旅行に行ってきました。広島では今年の5月にオバマ大統領が訪れた平和記念公園で、資料館を見学し、改めて原爆の恐ろしさと戦争の悲惨さを感じ取ることができました。また、平和学習の一環として、毎年、本校の6年生のために、被爆体験をされた田中稔子さんが、当時の生々しい話を語ってくださり、子供たちにとっても貴重な機会を得ることができました。修学旅行は、6年生の子供たちにとって、2学期に総合的な学習の時間に取り組んできた平和学習（プロジェクトH）のまとめの学習でもあります。修学旅行へ出発する1週間前にも、神戸空襲を記録する会の方に学校へ来ていただき、1945年の第二次世界大戦末、当時の敵対する米軍が神戸市及びその周辺地域に行った焼夷弾による爆撃の惨状を映像も交えて語っていただきました。神戸市とその周辺地域は、終戦の1945年には、年明けの1月3日から約8か月間にわたり、大小合わせて128回の空襲を受けました。被害面積は、神戸市周辺都市部の21%に及び、およそ9000人近くの尊い市民の命が犠牲となり、15万人に及ぶ負傷者、焼失家屋はおよそ15万戸、延べ65万人もの人々が家屋に被害を受けたと言われています。修学旅行では、その後、原爆ドームを見学し、原爆の子の像前で平和集会を行いました。全校生が平和への願いを込めて折った千羽鶴を慰霊碑に捧げ、音楽会で歌った「群青」を6年生全員で合唱しました。



広島の平和記念公園に設置されている慰霊碑には、「安らかに眠って下さい 過ちは繰返させぬから」と刻まれています。日本は、1945年8月15日の終戦後、70年以上に渡って戦争を経験していません。そのことは、世界に誇れる素晴らしいことです。しかし、一方で世界に目を向けると、宗教的な対立や部族間の争いなど同じ地球で暮らす世界の各地域で、戦争状態や内紛が続いている国があります。そのような国々で、子供たちが学校へも通えず、飢餓や貧困、病気に苦しんでいる状況に思いを馳せたとき、やるせない気持ちと同時に平和への重みを痛感します。

私たちが暮らす神戸の町は、先の神戸大空襲だけでなく、1938年（昭和13年）に起きた阪神大水害、そして、1995年（平成7年）に起きた阪神・淡路大震災と二度にわたる自然災害を経験している町でもあります。街の復興と共に、平和や命の大切さについて、子供たちと同じ思いで考えることができた広島での修学旅行でした。

校長 梅鉢 泰博